

産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立 岡山一宮 高等学校
実践場面	地域における商工会議所等と連携した取組
実践日時（時期）	令和7年6月13日（金）
対象生徒（学年）	普通科 1年生 320名
連携の形態	包括連携協定（岡山商工会議所）
学びの分類	企業訪問

実践の内容

【目的】

- ・高校1年生のキャリア教育の一環として、地場産業の魅力や特色を知り、文理選択や進学先将来の就業を考える機会とする。
- ・将来的に社会貢献できる人材となるために、製造現場の実際や研究開発、DXへの取組といったいわゆるSTEAM人材育成に関する見学・講演を通じ、地場産業・地元事業所の現状を知り、持続可能な社会を構築するために必要なことについて考える機会とする。

【実践内容】

- ・今年度から新たに1年生の学年行事として「でかけな祭」を企画した。内容は「企業訪問」「クラスづくり」「社会貢献活動」の3つの柱で構成した。
- ・包括連携協定の仕組みを活用し、岡山商工会議所へ依頼をかけ、次の8社の企業訪問が実現した。「品川リフラクトリーズ株式会社岡山工場」「中谷興運株」「(株)トーカロイホールディングス」「JFEスチール(株)西日本製鉄所」「IKOMAロボティック」「株式会社クラレ 鶴海事業所」「旭化成(株)水島製造所」「岡山大鵬薬品株式会社」
- ・将来の進路選択や文理選択を控える1年生にとって、実際の社会の現場に触れることで「こんな仕事があるんだ」「こういう働き方もあるんだ」と、将来へのヒントを得られる貴重な機会となった。
- ・8クラスが別々の企業を訪問し、工場内の見学や社員の方の説明に加えて、生徒から質問もあり、リアルな学びにつながった。



実践による効果等

- ・学校では知ることのできない新たな学びがあり、今後、自分の進路を決定していく中で、何を学んでいきたいのかを見極め、将来の進学先や職業を考えていく手がかりになった。
- ・普段見ることのできない機械の動いている様子を見学することができたり、知らなかつたことを知ることができたりし、多くの生徒が、普段の学校生活だけでは得られない新しい視点や刺激を受けた。
- ・今回の企業訪問を通じて、生徒たちは「社会は思っていたより近い存在である」と実感した様子であった。